平成 28 年 5 月 26 日
ＰＣＩホールディングス株式会社
グループ戦略本部グループ戦略室

企業研究会のご報告ならびに配布資料のお知らせ

当社は、平成 28 年 5 月 19 日（木曜日）18 時 15 分より、兜町カタリスト 櫻井英明氏 を特別講師にお招きし、特定非営利活動法人日本ＩＦＡ協会主催による「企業研究会＆投資知識研究所特別セミナー」を開催いたしましたのでお知らせいたします。櫻井英明氏の特別講演「稼足の先見眼」の後、当社代表取締役社長 天野豊美との対談「市場のテーマと個別企業を語る」にて、当社ビジネスモデルのご説明や事業計画・将来展望をご紹介いたしました。

今回も大変熱心なご参加者が多く、当社の強みである自動車産業、金融業界、ネットワーク・通信関連分野や、「車車間通信（Ｖ２Ｘ）」、「自動運転」、「デジタルサイネージ」、「再生エネルギー」、「情報セキュリティ」、「ロボット」、「フィンテック」、「ＶＲ」といった情報サービス産業におけるホットなキーワードを絡めたトークやご質問がございました。

櫻井氏特別講演の様子
お陰様で、満席となりました！



つきましては、主な質疑応答の様子と当日配布いたしました会社説明資料を開示いたしますのでご参照ください。当社グループをご理解いただく一助となれば幸いです。

今後も当社は、当社グループが営む事業について効果的にご理解を深めていただくべく、優良な情報をご提供してまいります。

引き続き皆様からのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

以　上

コミュニケーションツール『A-ｙａ』
デモンストレーションを行いました。



終始和やかな雰囲気の企業研究会
事前質問も織り交ぜての対談でした。



＜質疑応答要旨＞

Ｑ１　事業内容を拝見するとアベノミクスは御社にとって追い風だと思われます。社会の流れを先に読んでいたのでしょうか。

Ａ１　これまで当社グループが事業に取り組んできた結果、そうなったと思います。

Ｑ２　天野社長の経歴を見ると金融業界に精通している様子ですが、昨今話題の「フィンテック」や「ブロックチェーン」についてどのように考えていますか。

Ａ２　今は自動車にフォーカスしています。将来的には「フィンテック」などにも参入していきたいと考えていますが、今は目の前のやるべきことに取り組み、結果を出してまいります。海外事業も同様です。まずはコアとなる事業をしっかり成長させ、次の分野をスタートする際にはスピードスタートを可能にさせていきます。

Ｑ３　沿革を拝見するとＭ＆Ａ等のノウハウがあるように見受けられます。今後も積極的に実施される方針ですか。

Ａ３　特にＩＴ業界において、単独で成長し続けるのは難しいと思っています。今後も当社のコアビジネスに関連したＭ＆Ａを視野に、事業を伸長させていきたいと思います。

Ｑ４　御社のソフトウェアは私たちの生活を支えてくれる「縁の下の力持ち」と考えてよろしいでしょうか。

Ａ４　ソフトウェア自体が完全に社会のインフラ、生活基盤になっていると思います。目に見えない影の部分ですが、信頼性も求められますので、当社の技術をもって皆様をサポートさせていただいております。

Ｑ５　ＩＴ業界は日進月歩で技術革新が行われると思いますが、競合先やその脅威について教えてください。

Ａ５　日々技術革新は行われております。技術革新に対応するため、当社は、教育部を設置しております。また、最先端技術を取扱うお客様と一緒にビジネスを推進することでより高度な技術習得を行っております。

競合他社は確かにありますが、エンベデッドソリューション事業においては参入障壁が高いため少ないと考えています。逆にビジネスソリューション事業は競合が比較的多い分野です。

最終的に選ぶのはお客様であり、その判断においては企業の信頼性が大切であると思っています。当社は、技術力は勿論のこと離職率が低くエンジニアが抜けません。よって信頼関係が築けるため、競合があったとしてもリピートで受注をいただいております。

Ｑ６　今後のＢＰへの出資について教えてください。実行した場合は発表しますか。

Ａ６　今期は、これまで２社に実行しており、あと数社の予定があります。発表については、市場のルールに則り、皆様にお知らせいたします。

Ｑ７　V-Low マルチメディア放送の将来性について教えてください。

Ａ７　防災行政無線の代替手段として、緊急防災・減災事業債の対象に追加されることになった、発災時に生きる放送サービスであろうと考えています。

V-Low マルチメディア放送は、専用チューナー（受信機）がないと受信できませんので、当社としては、欲張ってはいけませんが、（この受信機が）日本国内 7,500 万台の車両に乗ればと思っています。また、これから何年か後には、各メーカーのカーナビへ標準搭載されることも見込んでいます。

年間 500 万台販売される新車に搭載されれば、例えば 1 台 100 円のライセンス収入と仮定しても、相当な収益貢献が想定されます。

Ｑ８　防災ラジオについて教えて下さい。

Ａ８　防災ラジオの開発を進めています。実際には、車の中や部屋の中で聞けるような製品になると思います。（現時点での）特徴としては音質が非常に高いことがあげられます。

Ｑ９　御社のＶ２Ｘ技術は「自動運転」に応用が可能ではないかと思うのですが、取り組みや実用性についての考えを教えていただけますか。

Ａ９　「Ｖ２Ｘ（Vehicle to Ｘ）」は、某自動車メーカーと開発いたしました。自動運転に利用される技術の一つとなると思います。当社が得意とする組込み技術そのものです。

Q10　総務省の研究会は、御社の技術力が評価されたものだと思われますが、その技術をもって、将来的な「ロボット分野」や「バーチャル・リアリティ（ＶＲ）」などへの方向性について教えてください。

Ａ10　ロボット分野の研究も当然のことながら行っています。

Q11　増収増益ですが、利益率についてのお考えをお聞かせ下さい。

Ａ11　高い方ではないと認識しております。これまでは、基礎技術であるエンベデッドソリューション事業にフォーカスしておりましたが、今後はＩｏＴ／ＩｏＥソリューション事業の技術的進歩に注力することで、将来的な収益貢献を見込んでおります。

Q12　「デジタルサイネージ」の収益について、現在は織り込んでいないのですか？

Ａ12　現在は一切織り込んでおりません。今後急拡大することも想定されますが、インフラに関わる部分ですし、どのような成長をするかは現時点でわかりません。必要不可欠な技術を提供すれば必然的に収益も上がるというビジネスに成長させたいと思っています。

Q13　人材が必要だと思います。現在約 700 名の IT 技術者がいるとのことですが、新卒採用について教えて下さい。

Ａ13　今年は、47 名の新卒採用を行い、現在研修を行っております。来年は 60 名程度の採用を目指したいと思っています。ＩＴ企業は人が財産でございます。当社は、昨年 10 月に人財戦略事業部を設置し、採用機能を人事部から分離して教育と同じ部署にしました。

採用実績においては、昨年までは未上場企業であったことも影響したかもしれないと感じており、やはり知名度としてはマザーズよりも１部の方がよいと考えています。

Q14　業績面ですが、上期上振れ、通期据え置きとなっています。少し保守的かなと思われます。

Ａ14　ご質問のとおり、今期上期については順調な業績となりました。下期業績においてもネガティブな情報もなく引き続き順調に推移することが予想されます。

しかしながら、売上高においては、「将来的な業績予想については『事業等のリスク』に起因する不確定要素の発生も想定されるであろう」との考えに基づき保守的に判断しております。

費用面につきましては、研究開発を前倒しで行っていきたいとの方針がございます。上期の業績を勘案しながら近い将来の収益に貢献させたいと考えております。こうした観点から、営業利益・経常利益の修正は行っておりません。

最後に、当期純利益も計画を大幅に上振れて着地しております。IPO 時の資金調達の目的であるオフィスの移転に伴う費用が特別損失として計上される可能性があると認識し、当期純利益につきましても当初計画を修正しないことといたしました。

当社は期初に示した業績予想をステークホルダーの皆様との固いお約束事項と強く認識しており、確実性の低い数値や根拠があいまいな事業内容は、一切業績予想に織り込まないことを基本方針としております。こうした理由から通期業績予想を据え置きといたしました。

Q15　昨年上場され、やはり次の市場も狙っていますか。

Ａ15　採用に関連してもお話ししましたが、マザーズ市場より近い将来１部市場を目指したいと思っております。

Q16　海外展開についてのお考えを教えてください。

Ａ16　いずれしなくてはいけないと考えています。ただし、現在は人材不足で国内だけで手一杯です。まずは足元を固め、業容を拡大した後に、海外展開の強い要請があれば、他の事業会社等と一緒に展開したいと思います。

Q17　神戸市や総務省との取り組みを行っていますが、公的事業に対する「技術開発助成金」のようなものは出ているのですか。

Ａ17　助成金はございません。現在は当社の研究開発予算で参画しております。

神戸市の実証実験につきましては、今年度神戸市がバスロケーションシステムをどのように拡大していくかが明確になった段階でプレスリリースが出せると思います。

また、総務省の研究会についても、１月から６月までで一定の取りまとめを提出し、６月の取りまとめの後、実証に進むのであれば、当社も継続して参加していきたいと考えています。東京オリンピック前にこうした通信が確立できる場所を特別区域と定め、国内のみならずインバウンド向けとしても、このアドホック通信を提供できるように進めています。

これから先「安心・安全」に役立つ技術を目指して日夜研究開発に臨んでおります。

Q18　中途採用について教えてください。

Ａ18　中途採用も行っておりますが、特にエンジニアについては、会社の考えを理解していただける人物を厳選して採用しております。社員紹介制度も活用しております。

以　上

第1部　櫻井英明氏特別講演

「稼足の先見眼」

「企業研究会＆投資知識研究所特別セミナー」

2016年5月19日

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

第２部　特別対談

「市場のテーマと個別企業を語る」

「企業研究会＆投資知識研究所特別セミナー」

2016年5月19日

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

ＰＣＩホールディングス株式会社　（証券コード：3918）

企業説明資料　2016年5月19日

ステークホルダーの皆様へ

当社は、平成28年5月10日に上場後初めての第２四半期決算発表を行いました。

昨年８月の東京証券取引所マザーズ市場上場以来、本第２四半期決算も**計画通りに順調な業績**を収めることができましたのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。

当社は、アナリスト・機関投資家向け説明会や個人投資家向け説明会を通じ、各四半期における決算内容及び概要のご報告を行うことを基本方針としております。今後も、当社が営む事業について効果的にご理解を深めていただく一助となる優良な情報をご提供してまいります。

当社は、**情報サービス事業を営む３つの事業会社を傘下に持つ純粋持株会社**であり、グループとして、ソフトウェア開発事業をコアに事業展開をしております。特に、**参入障壁が高いとされる自動車産業向け組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み**を持っており、中でも**自動車車載分野**において発展を遂げてきたことが特徴です。

今期は引き続き、既存事業の拡大による**売上拡大**を図ると共に、自社ソフトウェア製品の開発による**収益性の向上**を企図してまいります。

当社グループはこれからも、確かな「技術力」により**「安心・安全・豊かな社会」の実現**に向け、新たなサービス領域へ、協業を含め積極的に挑戦する会社です。自動車産業、金融業界、ネットワーク・通信関連分野にて培った技術基盤を用い、**「車車間通信（V2X）」**、**「テレマティクス」**、**「自動運転」**、**「デジタルサイネージ」**、**「再生エネルギー」**、**「情報セキュリティ」**、**「ロボット」**、**「ドローン」**、**「フィンテック」**等をキーワードとするＩｏＴ/ＩｏＥソリューション分野においても将来的な貢献を目指してまいりたいと存じます。

引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

PCIホールディングス株式会社
代表取締役社長　天野豊美

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1.　ＰＣＩグループとは・・・
①これまでの「歩み」

2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

**『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』**

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

＜起業までの道のり＞

・1975年　日本エヌ・シー・アール（現日本ＮＣＲ㈱）入社
・1996年　同社常務取締役就任
・2005年　東証１部上場企業の役員を退任後、株式会社Ｍ＆Ｓ（現当社）を起業
　　ＩＴサービス関連事業を開始

＜上場を成し遂げた二つの想い＞

日本のＩＴサービス業界における**従来の構造に風穴を空けたい**という想い
日本ＮＣＲ㈱役員時に経験した上場廃止の経験から、**もう一度上場したい**という想い

＜上場までの道程＞

最初は**リーマン・ショックの前**。上場準備を行うも市場環境から延期を決断
次が、**東日本大震災の前**。この時は経常損失を計上。再度延期を決断
それでも何とか立ち直り、諦めることなく。。。

**2015年８月に東京証券取引所マザーズ市場へ上場
ようやく『スタートラインに立つことができた』**

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･①これまでの「歩み」　～　会社概要

企業理念	行動方針
我々は、お客様の満足を通じて 全社員の幸せを追求し、 そして社会の発展に貢献します。	● 安定した事業成長を実現します ● ユーザに適したソリューションを提供します ● 応援して頂ける企業を目指します ● 積極的（Ｐ）に変化（Ｃ）を求め、革新（Ｉ）します ● 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

基本情報

（注） Ｐ：Positively　Ｃ：Change　Ｉ：Innovate

商号	ＰＣＩホールディングス株式会社 （PCI Holdings, Inc.）	**資本金**	6億5,072万円（2015年9月現在）
所在地	〒 136-0076 東京都江東区南砂2-1-12	**連結売上高**	78億5,304万円（2015年9月期）
代表者	代表取締役社長　天野豊美	**連結経常利益**	５億4,485万円（2015年9月期）
設立	2005年4月	**連結子会社**	ＰＣＩソリューションズ株式会社 ＰＣＩアイオス株式会社 Inspiration株式会社
従業員数（連結）	873名（2016年４月現在）		

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･①これまでの「歩み」　～　ＰＣＩグループ概要

ＰＣＩホールディングス株式会社が
グループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます

ＰＣＩホールディングス㈱

主な機能：グループ経営管理

グループ戦略の立案と実行

合従連合（注）におけるグループ間のシナジー効果創出
コーポレートアクション計画・推進
グループ全体の内部統制責任・内部監査
コーポレート・ガバナンス
財務・経理の統合、資金調達集中管理

（注）：同一の目的達成のために二つ以上のものが一つに組織化することを意味する造語。

ＰＣＩグループ

ＰＣＩソリューションズ㈱
代表者：天野豊美
売上高：7,056百万円
資本金：360百万円
従業員：806名（2016年４月現在）

ＰＣＩアイオス㈱
代表者：関谷恵美
売上高：610百万円
資本金：45百万円
従業員：42名（2016年４月現在）

Inspiration㈱
代表者：岩橋正治
売上高：207百万円
資本金：30百万円
従業員：12名（2016年４月現在）

（注）2015年9月現在

業務執行に専念

経営計画へのコミットメント
内部統制責任
コンプライアンス責任
個別業務への集中

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･①これまでの「歩み」　～　ＰＣＩグループ企業紹介

PCIソリューションズ

エンベデッド ソリューション　ビジネス ソリューション　IoT/IoE ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。
参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。
一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。
システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。
加えて、組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

PCIアイオス

ビジネス ソリューション　IoT/IoE ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。
オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに
当該業種の業務知識を活用したコンサルテーションも実施。
オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行う。
クラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

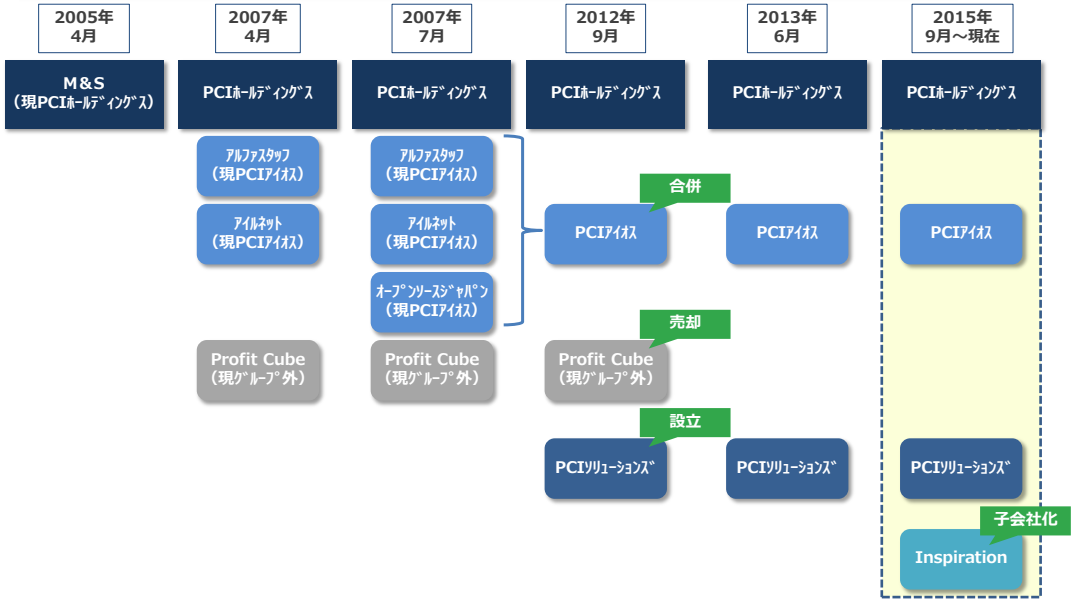
Inspiration

IoT/IoE ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。
自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。
自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。
自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、
ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･①これまでの「歩み」　～　グループ沿革



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1.　ＰＣＩグループとは・・・
②事業内容

2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

何をしている会社？

⇒　ソフトウェア開発を主力とした情報サービス事業
（お客様の要求に基づく受託ソフトウェア開発事業）

お客様は？

⇒　主に Ｂ to Ｂ　／　取引先（約200社）の多くは上場企業
及びその関連会社（売上上位２０社の内、１６社）

開発したソフトウェアはどこで使われているの？

⇒　自動車、建機重機、モバイル端末、デジカメ、専用機器 等
⇒　一般事業法人や金融機関の業務システム 等
⇒　車載器、スマホ、太陽光発電モニタリングシステム 等 ※次頁参照

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･②事業内容　～　３つの事業分野

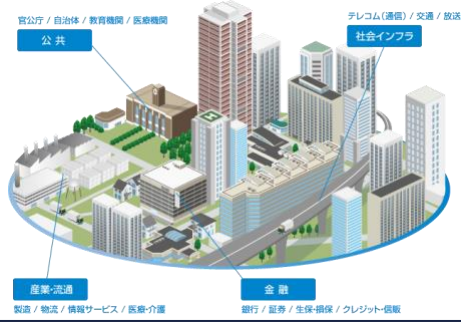
IoT/IoEソリューション事業



エンベデッドソリューション事業



ビジネスソリューション事業



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1．ＰＣＩグループとは･･･②事業内容　～　事業の特徴

さらなる新規事業分野を開拓

当社グループの位置付け

エンベデッドソリューションの開発実績を背景にIoT関連開発を行う。
参入障壁は極めて高い。

IoT / IoEソリューション
・自動車業界およびエネルギー業界向けIoTソリューションを開発。

成長分野

製造会社との深いリレーションによる受注。顧客企業との共同開発も実施。
参入障壁は高い。

エンベデッドソリューション
・自動車、重機・建機、車載器、情報家電、モバイル端末、ネットワーク機器などの組込みシステムにかかるソフトウェアを開発。

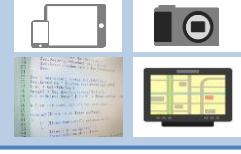
主に大手SIerから当社が得意とする分野の開発を受注。
参入障壁は高くない。

ビジネスソリューション
・金融、製造業、交通、放送等の幅広い業種へのITシステムを構築。
・ビジネスアプリケーションの開発およびその付随業務を展開。

収益基盤（安定成長）
・
高い技術力の源泉

ＰＣＩホールディングスの事業基盤

技術力	「ソフトウェア開発力」×「アプリケーション開発力」×「通信・組込み制御技術」
知的資本	「豊富な開発実績」×「優良な顧客」×「モラルの高い社員」×「プロジェクト管理体制」



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

2．ＰＣＩグループの強み

2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

『上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる』

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

2．ＰＣＩグループの強み　～　株主価値創造プロセス（強みのチェーン）

1 高い技術力

約700名の
IT技術者がソフトウェア開発プロジェクトを成功に導きます。

2 優良な顧客

自動車関連、重機・建機、家電メーカー、通信機器等、**日本が誇る先端企業様向け**にシステム開発を行っています。

3 豊富な開発案件

IT投資の事業環境は良好。特に、エンベデット開発実績を生かした**IoT関連の開発に注力**します。

4 高い定着率

愚直に技術を追求する企業文化、充実した社内教育制度により、離職率は業界平均の9.4%（注）を**大幅に下回る**水準**(約4%)**で推移。

（注）出所：厚生労働省　H25年雇用動向調査

5 高い継続取引

上位20社（内16社は上場企業あるいはその関連会社）における契約リピート率は**100%**。

（注）14/9期の売上高上位２０社における15/9期の売上高増加率は５%（209百万円）増となりました。

6 共同案件の獲得

高い継続的な取引実績は、顧客企業が新規にプロジェクトをスタートする際の**ファーストコール獲得**を実現します。

7 ＢＰの増加

ビジネスボリューム拡大のために、BP（注）との協業は不可欠。当社グループは、BPとのリレーションを深め**開発体制を強化**。

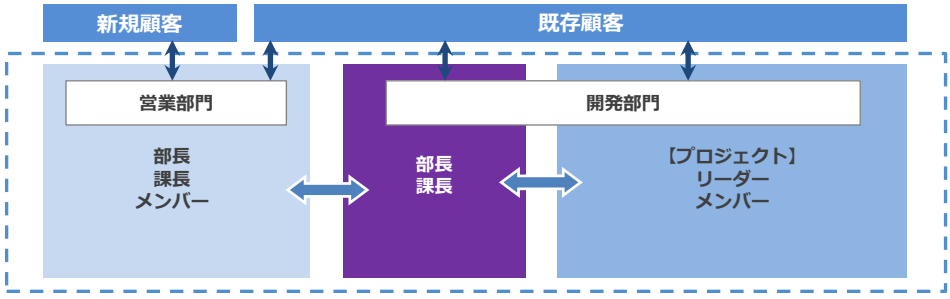
（注）BP：ビジネスパートナー

8 株主価値の創造

1～7 までの「強み」チェーンにより、**株主価値を創造**します。

（注）各データは、2015年9月期末時点のもの

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.



・開発部門に工程管理専門の**経験豊富な管理職を配置**し不採算プロジェクトを極小化
・2016年9月期上期の不採算プロジェクト案件は1件のみ（戦略的先行投資案件を除く）
・徹底した開発工程管理で顧客からの信頼を獲得、売上高上位20社の契約リピート率は100%を達成

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．　ＰＣＩグループの成長性

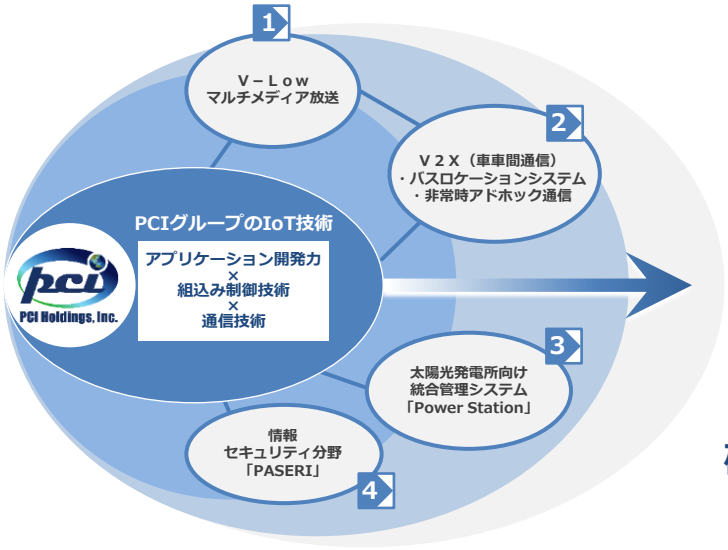
2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

**『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』**

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　新たなビジネス領域への挑戦

各種研究開発、エンベデッドシステム開発の豊富な実績で培ったIoT技術を応用し、新ビジネスサービスを提供する他業種企業と協業しWin-Winの関係を構築。安心・安全・豊かな社会の実現に向け、新たなサービス領域へ積極的に挑戦します。



「安心・安全・豊かな社会」の実現

当社グループの確かな「技術力」が支援します！

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

1 V-Lowマルチメディア放送

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　V-Lowマルチメディア放送

2016年３月１日より、東京・大阪・福岡を皮切りに放送サービスが始まりました

V-Low マルチメディア放送とは	V-Lowマルチメディア放送は、V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態です。
V-Lowマルチメディア放送の特色	① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性 ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報 ③ 放送地域を分割し、各エリアでのみ受信できるエリア放送も可能 ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供
事業参入の狙い	①車載器メーカーを中心に、デジタル化が進む自動車関連業界との関係強化 ②放送と通信の融合による最新サービス開発に携わる事で先行者メリットを享受 ③放送、デジタルサイネージといった新分野への参入を通じた事業領域の拡大
当社の開発範囲	①車載器向け共通モジュール ②コミュニケーションツール『A-ya』 ③スマートフォン向けアプリ ④番組配信サーバ ⑤V-Lowマルチメディア放送へコンテンツを提供する 『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資（他13社）

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　V-Lowマルチメディア放送の概要

Ｖ－Ｌｏｗマルチメディア放送による新しいサービス

- ☆ ３月１日　**プレ放送**開始（福岡・東京・大阪）
- ☆ ４月18日　アマネク社が九州地方へ向けた**通行実績情報の提供**を開始
- ☆ ７月１日　**本放送**開始（予定）

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で**一斉同時配信**を行う。




カーナビ・カーオーディオ


スマホ・タブレット

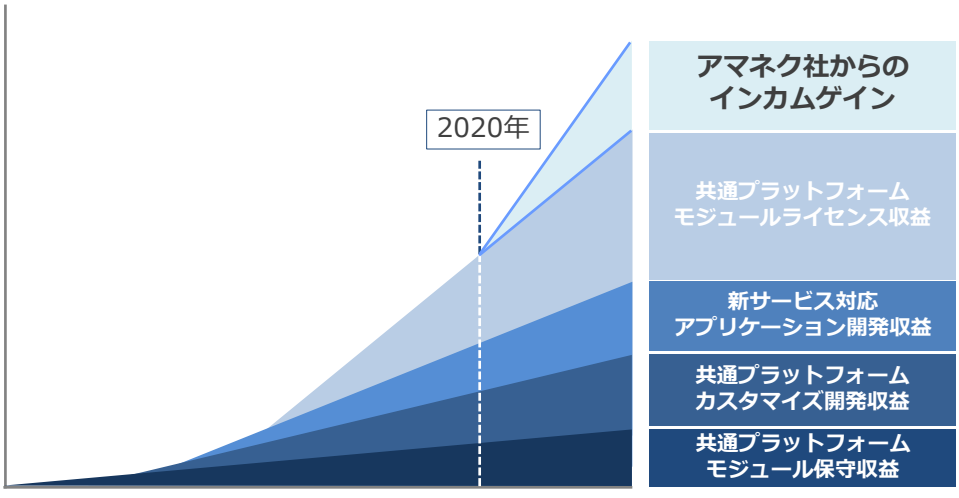

屋外サイネージ

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　収益モデル

1

ＰＣＩグループにおける収益モデル



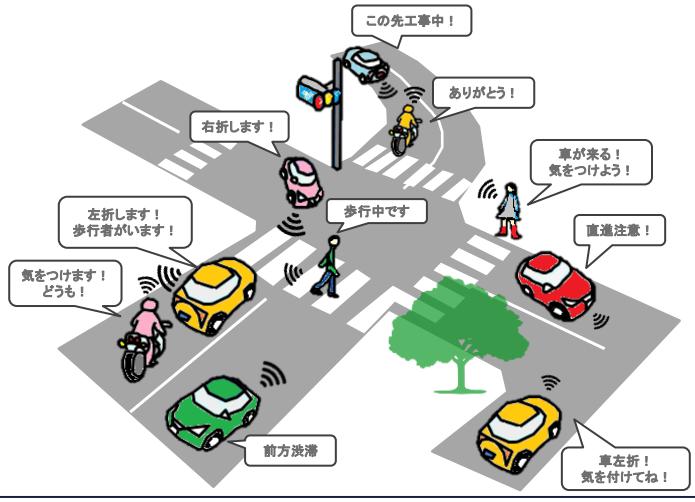
Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

2 V2X （Vehicle to X）：車車間通信

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　V2X （Vehicle to X）：車車間通信

ＶＸとは、自動車（Vehicle）と他の様々な機器やもの（X）とを通信でつなげること。当社はＶＸを実用化する為の**ＶＸユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン（会員：35企業・団体４自治体　2016年3月15日時点）を通じてＶＸを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

神戸市バスを情報通信基地とする実証実験

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　神戸市バスを情報通信基地とする実証実験

2016年２月23日
「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」が開始

☆ 昨年12月22日　バスロケーションシステム**実証実験**について**記者発表**

☆ ２月23日　**実証実験開始**（5月末までを予定）

☆ ４月18日　**第一段階の結果**及び**第二段階の実証実験発表**

ＰＣＩソリューションズが**「実証事業主体」**として参画

☆実証事業主体

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**

☆今後の展開

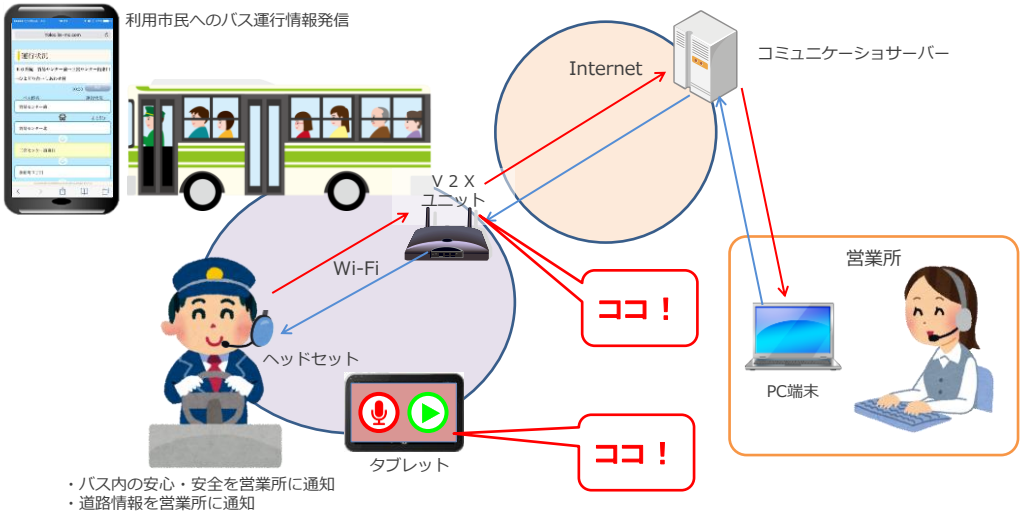
・**ＰＣＩソリューションズ**は、**「V2Xユニット」を活用したソフトウェア開発**に携わる**「実証事業主体」として参画**

・**第一段階**の「リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化（政令市初）**」を実証中、
第二段階の「市バス車両に**デジタルサイネージ・車外カメラ**を設置した更なる情報発信」実証を予定

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　神戸市バスを情報通信基地とする実証実験

神戸市バスにおける「Ｖ２Ｘ」ユニットの運用・利用イメージ
（安心・安全・豊かな社会）



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

2 総務省 研究会への参画

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

3．ＰＣＩグループの成長性　～　総務省 研究会への参画

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆ １月20日　**研究会開催**の報道発表

☆ １月から開催し、**６月を目途に一定の取りまとめ**を予定

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、**「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」**を開催。

☆主な検討事項

（1）災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケースと、その実現手段**
（2）アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
（3）アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性**　等
※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　総務省 研究会への参画

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆研究会構成員

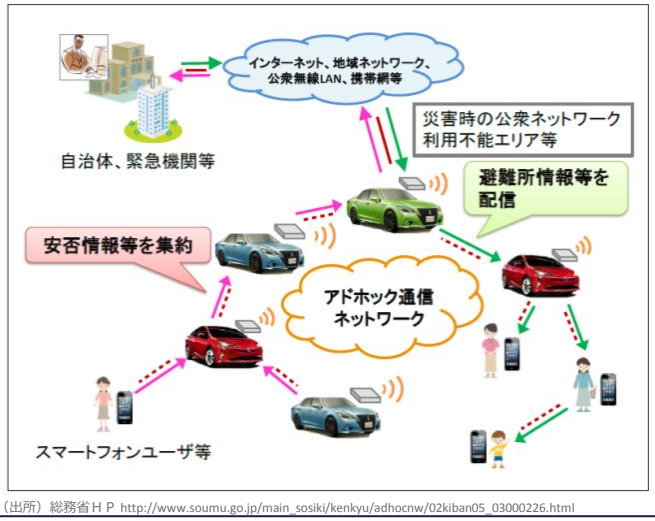
(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授	高田 潤一
東京大学 生産技術研究所教授	大口 敬
(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所 ディペンダブルワイヤレス研究室長	三浦 龍
(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー	大西 亮吉
本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部 グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師	大石 康夫
(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部 サービスイノベーション部 担当課長	堀口 賞一
ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部 プロダクト企画３課 課長	松本 善徳
(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当	田中 英明
日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長	渡邉 敏博
沖電気工業(株)社会システム事業本部 交通・防災システム事業部　無線技術研究開発部 部長	浜口 雅春
PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長	**清宮 幸夫**

（順不同、敬称略）

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

３．ＰＣＩグループの成長性　～　総務省 研究会への参画

非常時におけるアドホックネットワークの構築・活用のイメージ



（アドホックネットワークの構築）

災害時、公衆ネットワークが利用できなくなった地域等において、車載通信機器やスマートフォン等によりアドホックに通信ネットワークを構築

（アドホックネットワークの活用）

構築したアドホックネットワークを通じて、自治体等からの災害関連情報（災害発生情報、避難情報等）を被災者に配信

構築したアドホックネットワークを通じて、被災者の安否情報等を自治体等に集約

（出所）総務省ＨＰ http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/adhocnw/02kiban05_03000226.html

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

3 再生可能エネルギー

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

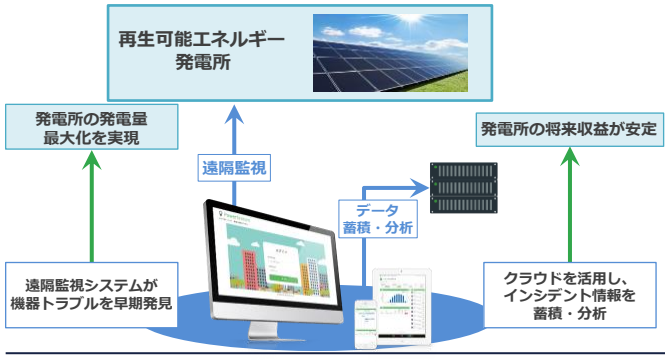
3．ＰＣＩグループの成長性　～　再生可能エネルギー：Power Station

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（Ｏ＆Ｍ業務）を支える統合管理システムです。
当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。
更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- **当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能**
- **大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（ＩＴ分野）の３社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富**
- **再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる**

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- ストリング単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注見通し

- 2015年9月　2拠点（実績）
- **2016年9月　第2四半期１拠点（実績）**
  期末累計６拠点（見通し）
- ～2018年各期　3～5拠点（見通し）

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

4 情報セキュリティ分野

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

3．ＰＣＩグループの成長性　～　情報セキュリティ分野「PASERI」

2015年12月9日
株式会社TCSI との協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社TCSI（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。TCSI 社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「PASERI（パセリ）」（以下、PASERI）を開発しております。
TCSI 社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の１つとしてPASERI の取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。



画期的なセキュリティ技術　秘密分散

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

４．　ＰＣＩグループの過去３ヵ年の業績と中期見通し

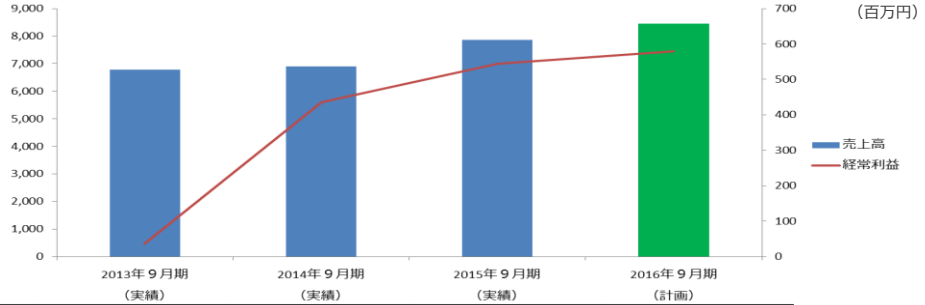
2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

４．ＰＣＩグループの業績状況　～　過去３ヵ年の売上高・経常利益の推移

・2013年９月期以降、売上高・経常利益ともに堅調に推移
・2015年９月期は、売上高・経常利益ともに過去最高を記録
・2016年９月期（当期）は、売上高・経常利益ともに過去最高を計画。
　第２四半期も、計画通りに進捗。

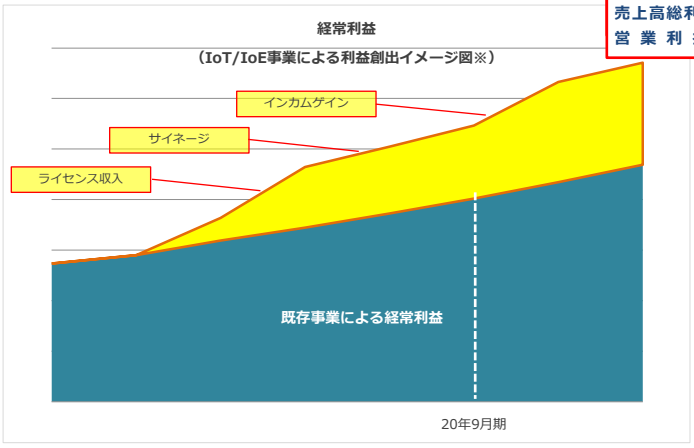


売上高	6,782	6,906	7,853	8,450
（前期比）	－	1.8%増	13.7%増	7.6%増
経常利益	36	436	544	580
（前期比）	－	1103.2%増	24.9%増	6.5%増
経常利益率	0.5%	6.3%	6.9%	6.9%

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

４．ＰＣＩグループの業績状況　～　中期見通し

中期ターゲット	
売上高成長率	5 ～ 20%
売上高総利益率	20 ～ 30%
営業利益率	6 ～ 10%



※ＩｏＴ/ＩｏＥ事業による利益創出イメージ図は、**現在織り込んでいないV2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送等**の新しい取り組みに係る**収益を反映させた予想値をグラフ表示**しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、**当社計画値を表するものではありません**。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

５．　ＰＣＩグループの株主還元

2016年9月期　PCIグループ　－ Motto －

**『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』**

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

５．ＰＣＩグループの株主還元　～　配当方針

株主還元方針

経営基盤の長期安定化に向けた財務体質の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、**安定した配当を維持継続し**、業績に裏付けられた**更なる配当水準の向上**を図ることで株主への利益還元を行うことを基本方針としております。

［上場後の連結配当性向の目安：３０%～５０%］

過去の配当実績

当社では、業績が安定してきた2013年９月期より上記基本方針に基づき配当を実施してまいりました。

	2013年９月期（実績）（未上場時）	2014年９月期（実績）（未上場時）	2015年９月期（実績）	2016年９月期（計画）
年間配当金	６５円	７０円	８０円 （普通配：70円） （記念配：10円）	８０円 （分割換算後：40円）

※当社は、2015年３月23日付で1：100の株式分割を行っており、2013年９月期および2014年９月期は調整後の金額を表示しております。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

まとめ

私の想い

・お客様、ビジネスパートナー、従業員、その他ステークホルダーの皆様に恵まれて上場することができ、ようやく**「スタートライン」**に立たせていただいた。
・今後も引き続き、ステークホルダーの皆様とともに当社グループの**「持続的な成長」**と**「中長期的な　企業価値の向上」**を図ってまいりたい。
・初心を忘れることなく、同じ価値観を共有できる**「真に実力のある」**会社と一緒に成長を図ります。
・誠実に、正しく、愚直に事業に取り組み、**『安全・安心・豊かな社会』**に当社グループの技術力が少しでも貢献できるよう努力してまいります。

事業のキーワード

□エンベデッド（組込み系システム開発）
・自動車、家電製品等には様々なソフトウェアが組み込まれております。

□Ｖ-Ｌｏｗマルチメディア放送
・2016年３月１日より放送が始まりました。

□Ｖ２Ｘ（車車間通信）
・今後、様々な場面での活用が期待されております。（神戸市バス）

これらのキーワードを目にしたら、耳にしたら

「ＰＣＩ」

を思い出してください。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

＜参考＞2016年９月期　第２四半期業績資料

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（1）2016年９月期　第2四半期決算　事業別の売上高・売上総利益実績

エンベデッドソリューション事業
～安定した事業環境が継続～

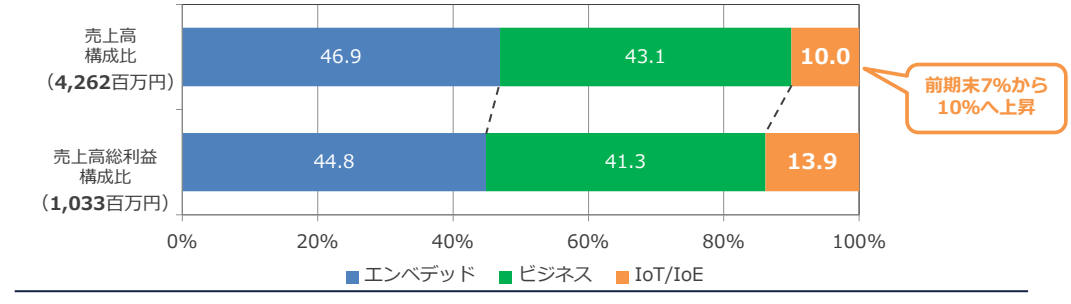
- グループのエンジニアリング力を活かした開発実績を背景に、**安定した事業環境が継続。**
- 得意とする**車載**関連、**重機・建機**関連等の自動車産業向けは、既存顧客からの**カーナビゲーション**関連開発及びチップセット開発等の受注が計画通りに推移。
  また第1四半期に新規案件として受注した**車載系ECU**（自動車の電子制御装置のこと）モデルベース開発も好調にスタート。

ビジネスソリューション事業
～BP強化で事業規模が拡大～

- 大手SIer（システムの企画、構築、運用サポートを全て請け負う業者のこと）を通じた**金融機関**向け案件の受注が伸長。また第1四半期に新規案件として受注した流通系案件も好調にスタート。
- 自社開発パッケージ製品は、**クラウド**型業務パッケージソフトウェアのリプレース案件を追加受注。
- POSシステム関連機器販売は、**インバウンド**需要による免税店舗の出店増が寄与し堅調に推移。

IoT / IoEソリューション事業
～自動車向けを中心に好調に推移～

- 平成28年3月から放送が開始された**「V-Lowマルチメディア放送『i-dio』」**に係る共通プラットフォーム及びソフトウェアモジュール開発を推進(P18-20)。
- **神戸市**によるバスロケーションシステム実証実験に利用される**「V2Xユニット」**を活用したソフトウェア開発を推進(P22-25)。
- エネルギー業界向けソリューション等は、自社ソフトウェア製品である統合管理システム「Power Station」を導入した太陽光発電所の**3拠点目**を受注(P31)。
- 自動車販売店向けソリューションは、既契約先の保守及びシステム機能改修が増加。



Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（2）連結損益計算書

（百万円）	2015年9月期 1Q（参考）	2015年9月期 2Q	2015年9月期 3Q	2015年9月期 4Q	2016年9月期 1Q	2016年9月期 2Q	2016年9月期 上期	2016年9月期 通期（計画）
売上高	**1,910**	**2,028**	**1,946**	**1,967**	**2,063**	**2,198**	**4,262**	**8,450**
売上原価	1,494	1,574	1,471	1,550	1,584	1,643	3,228	6,541
売上総利益	**415**	**454**	**474**	**417**	**479**	**554**	**1,033**	**1,909**
販管費	275	278	342	317	318	342	661	1,329
営業利益	**139**	**175**	**131**	**100**	**160**	**212**	**372**	**580**
営業外収益	6	2	2	0	2	10	12	6
営業外費用	0	1	1	9	1	1	2	6
経常利益	**145**	**175**	**133**	**90**	**161**	**221**	**382**	**580**
税前利益	**144**	**175**	**133**	**59**	**161**	**221**	**382**	**580**
法人税等	64	71	48	△ 2	56	63	119	220
親会社株主に帰属する当期純利益	**80**	**104**	**84**	**61**	**104**	**157**	**262**	**360**

※1．2015年9月期第1四半期は参考数値。
　2．2015年9月期第4四半期実績は、通期業績と第3四半期累計額の差額値。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（3）連結貸借対照表

（百万円）	2015年9月期 1Q（参考）	2015年9月期 2Q	2015年9月期 3Q	2015年9月期 4Q	2016年9月期 1Q	2016年9月期 2Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864
固定資産	330	323	330	198	310	470
資産合計	**2,748**	**2,774**	**2,688**	**3,285**	**3,273**	**3,335**
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005
固定負債	61	65	70	74	77	82
負債合計	**1,519**	**1,441**	**1,270**	**1,171**	**1,183**	**1,087**
純資産合計	**1,228**	**1,333**	**1,417**	**2,114**	**2,090**	**2,248**
負債純資産合計	**2,748**	**2,774**	**2,688**	**3,285**	**3,273**	**3,335**

※　2015年9月期第1四半期は、参考数値。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（4）連結キャッシュ・フロー計算書

（百万円）	2015年9月期 上期	2015年9月期 通期	2016年9月期 上期	2016年9月期 通期（予想）
営業活動によるＣＦ	**△ 297**	**250**	**△ 160**	**352**
税金等調整前当期純利益	320	512	382	
減価償却費	17	32	16	
のれん消却額	2	5	1	
売上債権の増減額	△ 244	△ 68	△ 297	
たな卸資産の増減額	5	△ 1	2	
仕入債務の増減額	45	64	73	
その他	△ 445	△ 295	△ 340	
投資活動によるＣＦ	**△ 22**	**56**	**△ 195**	**△ 223**
有形固定資産の取得	△ 8	△ 12	0	
投資有価証券の取得	0	△ 10	△ 85	
その他	△ 13	79	△ 109	
財務活動によるＣＦ	**14**	**275**	**△ 128**	**△ 128**
長短借入金の返済	0	△ 250	0	
株式発行による収入	0	636	5	
配当金の支払額	△ 95	△ 95	△ 133	
その他	109	△ 14	0	

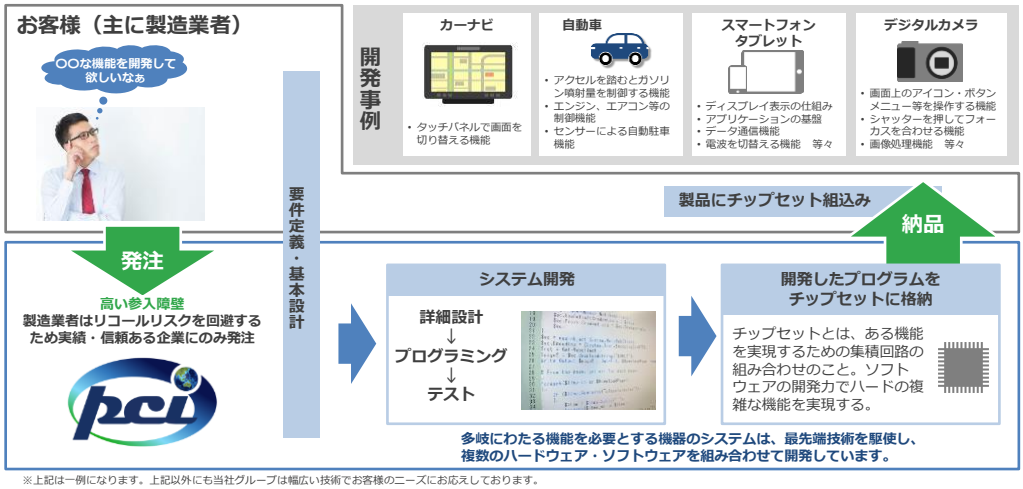
Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

＜参考＞用語集

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（1）用語説明　～　エンベデッドシステムとは

エンベデッドシステム（組込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、
「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組込み制御技術を応用したものが、
IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。



※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

（2）　用語集

IoT（Internet of Things）
コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE（Internet of Everything）
IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック（FinTech, Financial Technology）

BP
ビジネスパートナー企業やその技術者。

V-Lowマルチメディア放送
V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X（Vehicle to X）
自動車（Vehicle）と他の様々な機器やモノ（X）とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信
プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M（Operation & Maintenance）
運用・保守。

デジタルサイネージ（Digital Signage）
デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア（Open-Source Software）
ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

注意事項

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり 潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先
PCI ホールディングス株式会社　グループ戦略室
Phone　03-5633-7940
E-mail　ir@pci-h.co.jp

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

PCI Holdings, Inc.

Copyright (C) 2016 PCI Holdings, INC. All Rights Reserved.

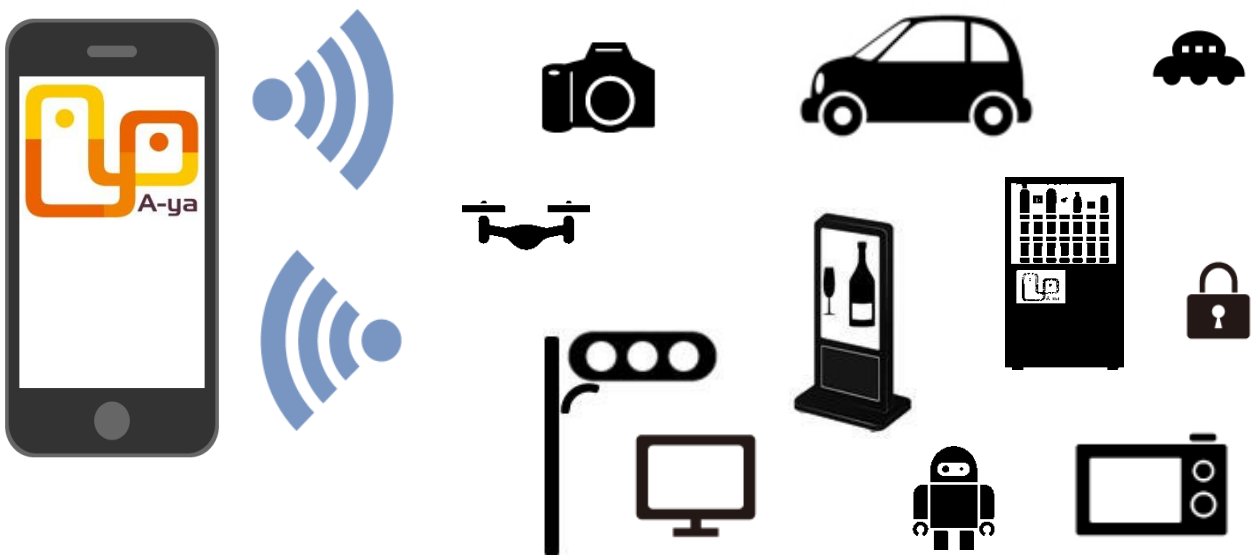
ヒトとあらゆるモノを結びつける IoT時代に最適なコミュニケーションツール

A-ya

つながれば、それだけで楽しい。
つながることで生まれる新しい価値がある。

特徴

- BLE技術を使い、低消費電力で稼働します。
- 双方向通信を実現。
- 出力調整により有効通信範囲を可変できます。
- ビッグデータの収集ポイントとして活用可能。
- ヒト側、モノ側それぞれにSDKを準備。
- 最少開発期間で既存システムに組み込み可能です。



いまや多くの人が持つスマートフォンをヒト側のインターフェイスとして位置付け、身の回りにある様々な機器と能動的にコミュニケーションをとることで、便利で快適な日常を創りだすことを目的に開発されたのが、『A-ya』です。



さまざまな情報を結びつけ、そして受け渡していく。
綾(あや)取りのようにみんなで情報をつなぎたい。
そんな思いが『A-ya』の原点です。

※「A-ya」：商標登録申請中

活用事例

A-ya for Infotainment



システム構成

●クライアント側
スマートフォン　（Bluetooth LE要対応）
・Android4.4以上
・iOS 9.02以上
A-yaモジュールの入ったアプリケーションをインストール。

●サインボード側
• Android5.0以上のOSで動作するPC+ディスプレイ
• Android5.0以上のOS搭載タブレット
のいずれかーつ
※A-yaコンテンツマネージャをインストールします。


スマートフォン


Android5.0以上のOSで動作するPC

ディスプレイ




Android5.0以上のOS搭載タブレット

●コンテンツ
コンテンツ、ランディングページなどはお客様ご用意となります。

再生可能コンテンツ

形態	ファイルタイプ
テキスト	TXT
静止画	JPG、BMP、GIF、PNG
動画	MP4、3GP、WebM

本製品に関するお問合わせ先
PCIソリューションズ株式会社
営業本部新規事業推進部
担当・福田　（fukuda_t01@pci.sol.com）
〒135-0076　東京都江東区南砂2-1-12　東陽町スクウェアビル5F
TEL：03-5633-8260

PCIソリューションズ株式会社
http://www.pci-sol.com/